

2025 年度第 1 回評価委員会結果の概要

1. 委員会の概要

日時：2025 年 9 月 5 日（金） 13：30～15：40

場所：株式会社水みらい広島 本社第 2 会議室

議事：SDGs への取り組みについて

- － 『水』分野での SDGs 活動
- － 『組織』分野での SDGs 活動
- － 『環境』分野での SDGs 活動

2. 報告内容

- (1) 委員任期満了に伴う、新委員の選任
- (2) SDGs への取り組みについて

(1) 委員任期満了に伴う、新委員の選任

今年度の第三者評価委員会（以下、「本委員会」という）構成委員は下表のとおり。2024 年度委員の任期満了に伴い、2025 年度における委員の選任を行った。2024 年度をもって、公益社団法人日本水道協会 水道技術総合研究所/今井委員が退任され、後任として同協会より窪田委員が新たに着任された。また、広島ガス株式会社/山本委員も退任され、後任として同社より渡部委員が新たに着任された。なお、委員長には窪田委員が選任された。

所属	所属部署・職名	氏名	
公益社団法人日本水道協会 水道技術総合研究所	主席研究員	窪田 忠仁	新任
広島ガス株式会社	経営企画部 経営企画室長	渡部 真也	新任
呉工業高等専門学校	教授	黒川 岳司	再任
広島工業大学	名誉教授	今岡 務	再任
水道技術経営パートナーズ株式会社	代表取締役	山口 岳夫	再任

(2) SDGs への取り組みについて

- (2) -1 SDGs への取り組みとして当社で設定している 9 つの取り組み項目について、最終目標と昨年度の実績、2025 年度の取り組みを報告。

○報告

分野	具体的な取り組み内容
『水』	① 水道事業の持続的な経営を確保するための Cyber Physical System の構築
	② 無効水量等の異常値検出を補助するアプリケーションソフトの開発
	③ これまでに収集された運転データや管理データの整理と解析
	④ 「人々の暮らしと健康を守る水道」を広めたい！広報活動の拡充
『組織』	⑤ 「働きがい」を向上させる、人事・研修・その他の制度の構築
	⑥ 女性従業員が十分な能力を発揮できる環境整備
	⑦ 仕事と生活の調和を実現する職場づくり
『環境』	⑧ 浄水汚泥の再利用率の向上
	⑨ デマンドレスポンス参画による CO ² 削減

①水道事業の持続的な経営を確保するための Cyber Physical System の構築

【最終目標】

Cyber Physical System の構築

【昨年度の実績】

- ・広島県広域運転監視システム構築業務は MMH 作業分については完了済であり、現在仮運用中。(2025 年 4 月から白ヶ瀬、三ツ石、戸坂、田口、温品の 5 機場、2025 年 10 月から坊土、本郷、宮浦の 3 機場において本稼働予定。)

【2025 年度に予定している取組み】

- ・広域運転監視システムの保守管理業務
- ・ロボットを活用した、浄水場における日常点検業務の省人化を検討中。

②無効水量等の異常値検出を補助するアプリケーションソフトの開発

【最終目標】

アプリケーションソフトの開発

【昨年度の実績】

<漏水検知アプリケーション>

- ・当該アプリケーションの機能や仕様等に関して社内及び社外へ周知

<水道スマートメーター関連業務及び導入検討>

- ・大阪広域水道企業団/自動検針システム更新維持事業の昨年度契約分の報告書の提出

【2025 年度に予定している取組み】

<水道スマートメーター関連業務及び導入検討>

- ・北広島町内において「水道自動検針及び SMS 通知サービス」の導入実証

③これまでに収集された運転データや管理データの整理と解析

【最終目標】

収集したデータの利活用

【昨年度の実績】

- (1) 白ヶ瀬浄水場のカビ臭場内増加に関するデータ解析と運転方案の検討および検証
- ・排水処理工程の汚泥滞留時間について、概ね新たに設定した汚泥滞留時間（3日以下）内で管理を達成
- ・学会発表内容が同様の課題を抱えた自治体関係者との情報交換に繋がったこと
- ・発表内容が水道産業新聞のハイライト記事に掲載され更なる情報発信に繋がったこと
- (2) 白ヶ瀬浄水場の薬品注入 AI 開発について
- ・薬注 AI モデルの最終評価の完了及び適正値が算出可能な稼働率の確認
- ・薬品注入モデルの完成
- (3) 電力使用量削減シミュレーター開発について

<宮浦浄水場向けシミュレーター>

- ・オフライン検証でのシミュレーター活用によって送水ポンプ同時稼働を3台未満とする運用を概ね達成
- ・来年度からのオンライン実証に向け、オンライン版のシミュレーターと既設制御装置の接続を完了

(4) 水質情報管理システムのリニューアル

- ・水質情報管理システムのリニューアルについて、委託製作部分のソフトウェアが完成、内製部分について開発が前進

【2025年度に予定している取組み】

<白ヶ瀬浄水場の薬品注入 AI 開発について>

- ・薬注 AI の資産譲渡及び通常運用が可能な運用基準の設定

<電力使用量削減シミュレーター開発について>

- ・宮浦浄水場向けシミュレーターのオンライン検証

④「人々の暮らしと健康を守る水道」を広めたい！広報活動の拡充

【最終目標】

人々の暮らしと健康を守る水道について、積極的な広報活動を実施する

【昨年度の実績】

- ・水道業界におけるデジタル技術の現状や今後の展開、海外展開等を担える人材の発掘を目的としたセミナーの開催
- ・出前水道教室
- ・地域イベントへの参加
- ・教育機関等との連携強化

【2025年度に予定している取組み】

- ・2025 広島水道展への出展

- ・国内外の水道 DX 事例を取り上げ、業界全体の課題解決や次世代の水道事業のあり方について理解を深める「水インフラ最前線セミナー」の実施
- ・出前水道教室等の学校訪問型講習の実施
- ・地域イベントへの参加

⑤「働きがい」を向上させる、人事・研修・その他の制度の構築

【最終目標】

社員が能力を最大限に発揮できる環境を整え、「働きがい」を向上させる。
水道を支える人材を育成する。

【昨年度の実績】

- ・エンゲージメント調査の結果、明らかになった個別課題をふまえた人事制度再構築
- ・MBO 強化
- ・研修の実施

【2025 年度に予定している取組み】

- ・来年度運用に向けた人事制度再構築
- ・研修の実施
- ・MBO 運用強化と新制度への準備

⑥女性従業員が十分な能力を発揮できる環境整備

【最終目標】

女性社員が能力を高め、継続就業できる職場環境を整える

【昨年度の実績】

- ・女性社員や管理職への聞取り
- ・女子学生の採用拡大に向けたインターンシップの実施

【2025 年度に予定している取組み】

- ・女性社員や管理職への聞取り
- ・積極的な採用活動
- ・全社的な意識改革とハラスメント防止対策の推進

⑦仕事と生活の調和を実現する職場づくり

【最終目標】

仕事と生活の調和を図りやすい職場環境を整える

【昨年度の実績】

- ・子ども参観日の実施
- ・ライフサポート休暇の導入
- ・年次有給休暇や夏季休暇の取得促進

【2025 年度に予定している取組み】

- ・ 育児休業からの復職後または子育て中の従業員を対象とした取組みの実施
- ・ 年次有給休暇の取得促進および長時間労働是正のための措置の実施

⑧浄水汚泥の再利用率の向上

【最終目標】

浄水汚泥の再利用率の向上

【昨年度の実績】

- ・ 浄水汚泥を活用したノベルティ（ミズミライオン胸像、吸水コースター）の作成手順の策定
- ・ 浄水汚泥の性状及び水処理性能の把握

【2025 年度に予定している取組み】

- ・ 再利用先の探索及び再利用方法・スキームの検討

⑨デマンドレスポンス参画による CO₂削減

【最終目標】

デマンドレスポンス参画による CO₂削減

【昨年度の実績】

- ・ 2025 年度の容量市場参画のための準備の完了
- ・ 2026 年度の容量市場への参画資格の確保

【2025 年度に予定している取組み】

- ・ DR 応動がある場合 CO₂削減への貢献の実施
- ・ DR テスト応動の実施(2027 年度の容量市場向け)

(2) -2 ご意見

評価委員からは以下のご意見をいただいた。

【水】分野

①水道事業の持続的な経営を確保するための Cyber Physical System の構築

- ・ 水道標準プラットフォームに搭載するアプリケーションを開発する場合は、独自性のあるものが開発されるとより望ましい。
- ・ プラットフォームは企業存続にかかわる問題のため情報漏洩防止の対策が必要である。
- ・ カメラ付きロボットの導入は運用の幅を広げると、応用可能性が高い。

②無効水量等の異常値検出を補助するアプリケーションソフトの開発

- ・ 無効水量等の異常値検出を補助するアプリケーションソフトの開発が必要である。
- ・ 漏水検知など自社開発ソフトは優れた取り組みである。
- ・ 漏水研究は有望であるが、他社の漏水調査事例の情報活用を検討すべきである

③これまでに収集された運転データや管理データの整理と解析

- ・カビ臭対応で原水を捨てる方法は理解を得にくい場合があり、場所に応じた最適システムの検討が必要である。
- ・返送水停止の是非について立地・水資源状況に応じた運用設計を行うと良い。

④「人々の暮らしと健康を守る水道」を広めたい！広報活動の拡充

- ・「人々の暮らしと健康を守る水道」を広めるため、広報活動の拡充が望まれる。
- ・『水道×DX×海外で切り拓く、水インフラ最前線セミナー』は、既存団体との連携を検討してはどうか。
- ・出前水道教室や高校講座は人材確保に有効である。
- ・広報・広告の強化は人材確保に効果的である（スタジアム・交通広告・スポーツ支援等の活用）。
- ・水道展を機に、会社として十分なPRを実施すべきである。

【組織】分野

⑤「働きがい」を向上させる、人事・研修・その他の制度の構築

- ・「働きがい」を向上させる人事・研修・その他制度の構築が必要である。
- ・ハラスメント研修と併せて相談窓口を整備することが必要である。

⑥女性従業員が十分な能力を発揮できる環境整備

- ・女性は若年層の採用が多いと思うが、子育て後の層を戦略的に採用すれば優秀な人材を確保できると考える。
- ・ライフサポート休暇については、申請する際の心理的ハードルを解消すべきである。
- ・女性座談会を通じて、制度活用に関する課題や改善策の要望を把握し、それらを反映することで、制度の活用促進につなげられるのではないか。

⑦仕事と生活の調和を実現する職場づくり

- ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を実現する職場づくりが必要である。

【環境】分野

⑧浄水汚泥の再利用率の向上

- ・目標設定の根拠説明と調査に基づく再設定が必要である。
- ・採算性・安全性を確保した再利用先の具体化をするべきだ。

⑨デマンドレスポンス参画によるCO₂削減

- ・信頼できるアグリゲーター（J-POWER）であれば安全性は問題ないと考える。

【全体】

昨年度実績と今年度継続分の区別が分かりにくいいため、整理が必要である。

以上